

福井県医師会

だより

第632号 平成26年(2014)2月



砺波平野の散居村

福井市 松原 六郎

表紙写真説明：砺波平野の散居村

福井市 松原 六郎

散村といわれるのが一般的で、散居村という言葉は富山県内だけで通用する俗語であるという。広大な農耕地の中に住居が散らばるといのは北海道など各地に見られる。この景色もやがて消えていくのかと思う。

## 醫 縫 録

# 福井大学医師会が発足して

福井大学医師会長 山 口 明 夫



昨年4月に大学医師会が発足して、医学部長として初代の福井大学医師会長に就任いたしました。現在日本医師会会員21名、福井県医師会会員37名、大学医師会員46名で構成されていますが(12月1日現在)、他の郡市医師会とは異なり、全員が勤務医であります。これまで私共は吉田郡医師会や福井市医師会に所属して、どちらかという各人が活動をしてまいりました。全国的には各県に大学医師会が設置され、県医師会との連携を密にして、地域医療の向上に寄与していると聞き及んでおります。そこでこの度福井県医師会が一般社団法人へ移行されたのに伴い、大中会長、執行部をはじめ多くの会員の皆様のご理解をいただき、大学医師会として活動することになりました。今後は県内唯一の特定機能病院であります大学病院の特徴を活かして、医学・医療の支援や啓発活動を介して、地域医療の向上に寄与するとともに、大学に勤務する医師の立場を社会に発信していきたいと考えております。ただまだ発足したばかりで、会員の意識も低く、福井大学医師会としての方向性も定まらない状況ですが、福井県医師会の皆様のご助言を得ながら、大学医師会の地位向上に努めていく所存です。ご指導、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

さて福井大学は創設以来33年を過ぎ、多くの卒業生を輩出してきました。福井県内では現在医師として約570人、看護師として約280人が勤務し、県内の医療に大きく貢献できるようになってきたと自負しています。今後も優秀な医療人の輩出に福井大学医学部として努力してまいります。大学ですので教育はもとより研究にも力を入れる必要がございます。これまで生体画像医学研究は地域特性を活かし、優れた成果をあげ、臨床応用にもつながってきました。また脳発達研究や先端的ライフサイエンス研究なども高い評価を得、他にも各講座で独自の優れた研究に取り組んできました。今後も診断法や治療法の開発など高度先進医療を目指したト

ランスレーショナル研究を推進し、大学病院としての大きな責務を果たすべく、努力していきたいと考えています。また現在文科省より福井大学としてのミッションの再定義が課せられ、国立大学としてどうあるべきかが問われています。医学科、看護学科のミッションの一つに地域医療の発展への貢献がございます。本学医学部の特色を活かして、使命を果たしてまいりたいと決意を新たにしているところであります。さらに2年後の国際基準に対応した医学教育認証評価を取得するため、カリキュラムの大幅な変更を余儀なくされています。鋭意取り組んでいますが、現在50週弱の臨床実習時間を74週に増やすなど山積する問題を解決し、臨床実習のさらなる充実化を図らなくてはなりません。そのためには関連病院での実習が重要となり、今まで以上に医師会の先生方にはご負担をおかけすることになりますので、何卒よろしく申し上げます。施設面ではこの秋に私共の念願であった新病棟が完成し、その後数年間をかけて旧病棟や外来の再整備が行われます。また本年3月には福井県からの地域医療再生基金により県内のすべての医療従事者の方が利用できる福井メディカルシミュレーションセンターが大学内に開設される予定です。以前よりあった臨床研修センターに隣接し、シミュレーター等機器の整備充実がなされますので、医師会の先生方にも大いに活用していただき、質の高い診療技術の修得のお役にたてれば幸いです。

最後になりますが、福井大学医師会の発足を機に、福井県医師会はもとより、他の郡市医師会とも今まで以上に密接な連携を取らせていただき、地域医療の向上や勤務医の地位改善を目指して活動してまいりますので、医師会の皆様にはご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。